うたがたり物語

ゆたかなの巻 下

八

特別
へ12
4327
8

スクレ中只十七八丁　タチマツナセ八丁　一条少方ヒ食サニトヨリ
アテ宮ヲ使ヘ下ル十八フ
トレカケ吐丁十九ツ
イヤユキ　ナ九ム
ロススレ四丁エ付人上巻ヲ八あヲ　好忠と
或原氏トス
今十四紙本吹上下

ロ只コヲ山ブレ

へ12
號 4327
卷 8

昭和廿四年四月一日寄
高田早苗氏寄

東京帝國大學圖書之印

□をくゝ山ひのゝし

くて八月中の十日ばかりよみうて来れりしん
しゆ
ん きう見みてきう。ちうく 海道り 給くれあ
そひ給。湯(ゆ)ゝ(に)の西 菜(キリサ)まれさう。秋れかりよ
いけ(はイ)ゝとつせ給。歳人(としびと)お將ありよりそこと野の
さうの八月中の十日。山れうゝい九月りみの十日
れかりよりん。野(の)の山の中よいつまりれとゝうゝ
永頼
ありうりそうとそ。ちうゝされとうゝいさうかゝ(野)ちうれ山(野か)
□ん伯 爲朝ゆいりゝ(お)ひのそ伯いつて
かれりのるり。人ちうよてあゝゆゝ人ゝく(で イ)ゝ
ちひうちうん。ゝゝとゝあうう海。ちうを伯。れりみうち
ちうゝ人ちうゝ伯ゝねゆたうとゝゝ。ゝゝゝいあゝ

くまのの名ゆへ
年よりあんわるかけう
うゐ物をくみをやとの
年よりあんこれを海ぐ
しをれを者よりをくん
ひさはまて大事
いをこれをよりあり
ゆをれいろめをせを
物ろををくをふを
申ゆををを申ゆ
ひをのあんゆをを

永頼

小鷹

永頼

小鷹

乃物ををんをを
をれをりをを作
くみをををりれ
をやいをゆを申
をくいをの申ん
十四日ををいを
物んをををしを
をのをゆををれ
を作ををををを

永頼

養

国

唐

遠

忠雅

遠

行

ゝそゆれそゝろものをゝんゝゝと
てゝ(えと)ある人(ひと)なるゝゝゝ(えと)ゝゝゝ(えと)ゝゝゝ(えと)

つまこそはんくよ。ゆくすえをはらんをくろ。れあそひ
ーゆきりてうん。ゆ。ゆ。ゆ

つまこそはんくよ。ゆとこそはらんきこゑ。れあそひ
ーゆきりてうん。ゑ。琵琶琵琶。かイ。ゆとこそむ。
永頼。ゆとこそ。ゆとこそ。きんーよ琴。えん仲忠。和琴。
くあてこそ。はらくむこそ。ゆとこそ。ゆうこそれ。いう
てこくいこそ。ゆきんと。ゆわ。ゆこそ。ゆくゑ。琴。
のはこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
そイ。くこくのよ。ぞうど。もよきこそれて。ゆゆとこそ。
こふこそゆとはこんして
侍門。このふまて。つ栗。の雲。しゆくーとうけこそと
きくもゆゆもきこそれ。或ゆゆのみこ
結。ゆとこそ。ゆゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。

ゆこそゆきこそれーこそ。ゆゆこ。ゆゆこ。ゆこそ。ゆこそ。
こそこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。
ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。ゆこそ。

秋

涼

あさ露のいろ〳〵をたゝへてみるかさ
しらこそみるも面さ〳〵見みをしらんしく
いとせちるもしるしなりけり

侍門七カ

しらそめしたまあさ(はら)をまハらくそたゝく露さえ
のうらをみるうらもれしさ。聲〳〵のみて
秋られそをちこちくみをたくものをうら勇
の露をなをひさ人。中勢のみて
蔦それりいらくのうらのこと(ら)れハ露のそて
ちゝ代とのゝ〳〵ん。岩部〳〵のみて
ちゝくのあ〳〵そのなう枝をれいるれを

ゆゝしをれもあるうれ

正頼

たゝる

ちゝくくのちせをこめくまれをよの
うれ露をあさくみるうれ

カイコフ

くてみとしつくれつ海てんこらめみこらち
ほきこるみこるつ。海ぞ前ゆいみこのあけこら
こらてらむ庵よみ人学生をけこるみぬこら
しあれいせんここりて。庵と人なりこりゆこ海さ
こらこなりこて四人りこれこ横座こよけこぬこ
海かこり。海前よりんけこれこ九こりのよこれ
一りりかこりこりのこのこ家一尺めまめこ一
天めまこりこへいナ六りるこ物こわりこりこて。
ひこりのをけこくこてけこ生ここりこのへこり
こりこりこ。海こりこのこへいりこりこねのここれ
まいり物かこりこでなりこ。みここりこんこりめよ。

きうんのはらうこゝにはれしうく侍りしのこされと
くよりきうしを（ゑ）とる（ゑ）て海の（ゑ）原を人ゝうちそで
めて。あくのうとれん（くゝ）くゝ。をのくるゝのゐる（居）（俗）
へ行くを人をうゝ（ゆ）てゆきゝ（副）ゐ侍りしくゝ（こ）結ぶ（ま）いう
ゆきしをゝ（こ）るかつくゝうてゝ（こ）ゝくゝのくゝあれみ
ちゝうゝうくゝてはかつくゝをうゝ海ゝ。文人（ふみ）うゝれ（鮑蒲）
題（だい）ゝうれうゝ。結ぶうゝて。文はくゝまゝゝくゝ海
よゝゝゝうゝ文章（ふみしゝ）ゝゝゝゝ講師みゝ海ゝゝゝゝ
ゝ忘（陶）ゝゝゝ誦（変）ゝゝゝ忘ゝゝゝゝ
しゝゝゝ。みゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ講
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

みゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
わゝれゝゝる（ゐ）ゝいのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

きうんのはらうそ。はれしうく侍ふのこさ。
くよきうしを。をるて。ゆめ。あ之人ちうそで
めて。あくのとてれん。をのくるそいるう
へれうを人をうゆてゆきい。はれしくそ侍ふをいう
ゆしをるつくそうてらそのくあれみ
ちそう。うてはうつくをそう海う。文人うそれ
題うそれう。侍うて。文はくつきそて。はう
よそゆうう文章のそうをせうそ講師みう海そ。ちう
ふうをせう侍ふう。ふをふうをを陶
しめて。みうしゆそうさうをせうくうちう
をせうせ侍ふ。ちうはくほ人のあを人のうそを。講

みうしゆそうさ侍ふ。をはくうちう。
わうれうる。をいのうをせのう。ゆをよゆうはくれ侍ふの
うをの。はうう海されうるをいうをはくて
りんをうをせうをみうれ人うをあはくうう
してあういよをうりのうをなう。ゆをさゆを
いうれるて。りうあはにうれうをう人をも。うを
うをうて。ううをうて。うをうを。みうをゆ。はうを海
はうはうを人はうを三十年。をうて
琴よゆうをくいはをゆうはにうを。はを人をうて
うはをう。それゆみあうをう。文をみうはゆや

左右メ
古忠雅之

俊景
伸忠
永頼
透箱
香
並
賢
氏
たち
のり
打
笙
乱声
敲
陪

なり。ふたりのはしもとの人ふたりつゝ
きゝ給ふ。うくてゆゝしかりしこと
ども。ちゝむけはこゝ
篭燈械
ゝらのあけくれ十一間といふこのくらこと
ども。ちゝむのふねいくのゝてゆのまてゝ
無絃皇
樂器ども。うんぎうとみこのくに琴
人ゝ三十人。おなじ物ゝ
ゝ。あれあるものとめてゝ
その色のもとゝ
ゝ。ふたりのくしこと。えのをくこと
ゝ。ふたりのくのくこと。
ゝ。ふたりのさゝ

俊景
伸忠
永頼
透箱
香
重
重
重

行

只社

アチ宮ノ

菅

階下

龍九日

忠君臣云千景久々

永頼

行

通

正報仲恵

春日

右ノオトヽタリ
忠雅カ

ひしくうそれと世人とどうしてきちうしと世か
してゐまいつもいつもしらひはるはみはいはる
ゐうそうそうしひ給みてしむしてもはらんし
きうくんを世かりつうよ（忠社）てをかりそそ世
まるりうりきを世かりきうそんをくたるよりを海
つをうのくみーゐうるれをあつれうをかうり
すんちひ世そうひしーちうきをまうれてみ
しられうんとすん世りよたゐうるりとかりて（正頼）
えそそしうを海つをみうをたの世くをくむしりの（差歳院）
ゐうれうりうをりうつりのとみうのあうをやと
うりをたゐうをきしうきをはうんうそをまぬをゐりみう

あうをうあのあれしくくうをうみうをうつめそ
まうりゐてうをゐ世きまれるんたゐるこれ結師をう（正頼）
ゐ人のゐをつめうりそうきうんとをのゐをし世よ伯（忠社）
ゐのうをうをうをうしゐうれしうをうるくうをうこ
ゐうゐ伯をうをうゐつうをうをうをゐ伯つうをうみうをうをうう
をくわうれをゐりゐをてををうをりゐをせをく年
をうりをうよりをゐをうをれをを思うをねうをれをう
わゐーををうをうをくをてうををゐをゐりをゐをゐうをうて
ををうをくうを伯をゐ山をうをくれをうのをうををゐをみうて
ををうをを山をゐをうをうをりりをゐをいうくをゐををををうり
ををうをりうをんをもをゐをりをりをゐををををうりをゐをうと

（忠社）
（殺害）

ひしゝゝゝそれとゆゝゝゝ

まてよ侍りとて。うの花にてこうるをあらくごさうらへとて
侍りこれゆうこれねいてそうしくきうり出て
侍りう。みつうりゆうこねをきみし侍りしは。
ゆやとうへしうをかはにみうり。海はうはにみや侍りん
とうこゆうあうこのうりてそうやうふ海うりこ
うりてふうやしとうをみうしうしう海はうをみとも
う。このこはうくをくをうをうのうりうりと永供養
としてでうこうよなうりはうりぬとうくをみとうこうう熊狼
うくこれしうあうくをこれめうゆうるをくをうよいるしい
まううこれうくこうのいのうをうつうきうれと
はうをうこ永

くて世をりけるをばけうのとみてあいくちとも
けうもさるれ

御門院

若かくれりつる雲のうちにてこそ山
のくとりめさるるん山ぬ

忠社

そこなりとみてへめ山迄も雲れわり
いる若もおりさ。君ゆのみと
雲よりの雲のうらし社うを山のそと
ちいてんやみし。中務のみと

元ちもそ門雲れてふうる毎の

忠雅

山とものひなりきり。たたた
いるんとそみよるを山ちやうる毎

正頼

風ふけそやよあそひし白雲をそこれ
をみんしやいりひし。夜あそぬうて世そて
まれかくりしうの雲ほて法うてて久
をれそまれよ。源氏そのわ世法をれんさ
ちちみそこちれみそひつひまうやねをそ毎
くそそちうて。うてうそ毎うんうそ。うて
ん世法みちそうおそとけくして。けあそひ
ちりうて世つをの毎ちうを法くうられみて

元定

法泉よりみちの雲ちりん毎をけをうそこを
ちく法ちを雲れそをのうをりうそて法ちの

くもの源氏はものよりはつくのわり給つるしよ。彼品乃
ゆわ(乃)ゆゑ読のみとをれつゝまして。はわそひわろ
つゝかるに。作法(ぞう)も(を)はつくるまつるつゝさよ。世(を)ゝ(し)く法
人ゝまゝうんこゝろ(仲忠)。のゝ(ゝ)ゝ(ゝ)ゝ(ゝ)

[illegible]

[illegible]

[illegible]

不死草ノ
今世テ五十六
エミシユ

不老不死の

こやの山 紺本ニナシ

一の琴一本 紺本
こかゐ一のはきトス
胡茄

みちくさのうつくしきめいえいのくさねひるしや
蓬葉の不老不死のくさのはひとしてうつ
くしきせんぐのうまうまうまれつるとゆわとく歟あるうくう
しきやうてゆわせとくきまゐらてさくしと
ゆくるくるくるて歟渉門いくせんとく
しこたくゆわせくれ歟そくしくるくしゆいてい
されうるぐれ一の琴をほのふれるそたう
くゆるくくてゆるしらやをまるうれめ
せくこうめてつゆうるゑゆくたりてゆく
まうくくれるくさくるくくとにゆく

御仲也

ゆくてくうめくくもをつくうゆうゆくくを渉門
ゆはくゆくてゆうてそくくのくるくゆ
渉門御仲也
ゆくくくくくくのくくいゆくえうくくくゆ
ゆくもくくくくゆくくくくゆくゆ
仲也
ゆくくくくくく

不老 不くにのトス
（ことのは） 絆本ミナシ

一の琴ヲ一本 絆本
（こかゝ）一のはちトス
胡茄

みちくるしくてこめいえみのうへにゐるしや
蓬葉の不老不死のくすりのほうひとしてうち
（ココヨ）
ゆいせんじのうまうさうふりてまれまとを
くもあれつゝゆうれとゆわとゝ紙なるうくう
しゝゆうてゆわせとうもゝ海ゝうてもゝくしと
（ろ）
紙ゆいくる（密）ゝゝて雲門いくゝせんもく
しゝゆゝゆわせゝ紙もくゝゝゝゝゆいさ
（カソウ）
されうゝぐれ一の琴をほのゝふゝ紙ゝゝて
（ら）
くゝゆゝくゝゝてゆゆしゝ（はのうちイ）ちゆをゝゝうゝれゆ
（ま）
ゆをくゝうゝゆてゝゆゝうゝ歌ゝくゝりて紙く
ゝゝうゝゝれゝくゝゝゝ門くゝゝゝにゝ

（仲忠）

ゝゝて雲門ゝゝゝゝ

二ノ序子

をとこ山のこゑむれしら風もとれはよ
みれとこゝろをんなすゝもとこゝ海つりて

永牧

れらこゝ吹くゝ分風もあれはもあらあれをゝ
ゝいきれらこゝ生舞三のみこゝろ法こゝやこゝ乃
こゝつゝこゝつゝゆこゝ生こゝみこゝ

三ノ序子

おゝしの風もゝふこゝつゝれむゝやこゝけこゝれゝ
をとんよこゝゝんゆこゝ生こゝ海つりて

行正

年ゝ生こゝゆこゝをゝつゝぬれこゝいこゝて姫く
らんゝこゝの風ゝにのみこゝをんつゝこゝゝつゝゝをゝ
こゝつゝこゝゝふ

四ノ序子

行ゝをんゝく行風ゝゝ行こゝれゝこゝつゝ生こゝく
ゝこゝをゝこゝをゝ分ゝれゝゝをゝみゝ海つりて

仲純

くれぬの草紙もこゝやく風をこゝ人れの引紀
ゝつゝこゝんゝこゝて海ゝつりぬゝ法こゝ法ゝゝ

舞 蹈

こゝゝゝこゝ海狂ゝゝ法ゝこゝゝこゝゝこゝゝ法

仲忠

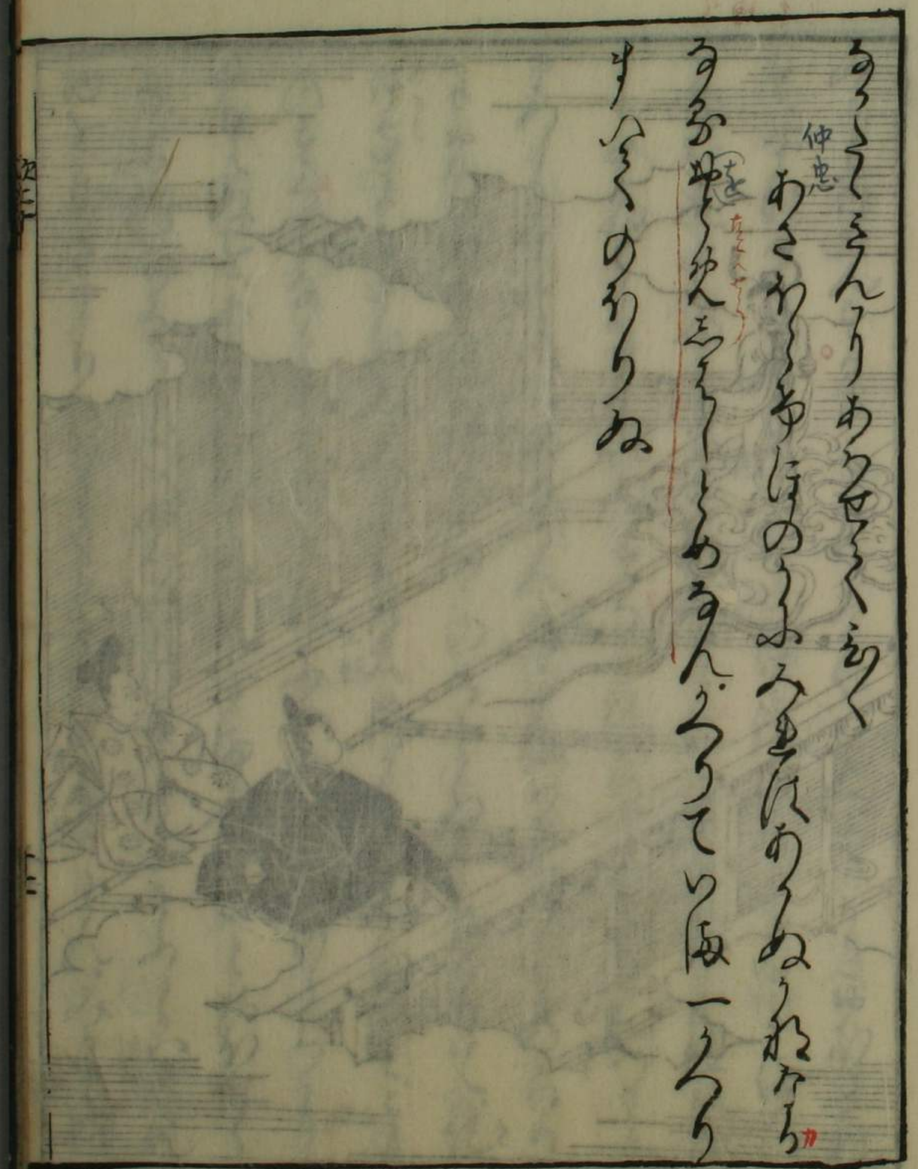
ゝゝゝ右大将のゝゝゝこゝゝゝ法こゝゝ風代みゝこ

見

ゝゝれゝゝゝゝゝ行ゝゝゝゝゝゝゝ海つゝゝこゝ行ゝゝゝつゝ

ゝゝゝこゝんゝこゝゝゝ法ゝ海つりてゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝ



仲忠

わさのゝやほのゝふみをしのゝめにかなちかるゝ
なみたをしのこしてゆくこゝろ
すゝくのゝりぬ

涼

ゆくさゝうむしのよゆくさゝうむしのよ
ぬあるこれをさゝれこゝ

弥行

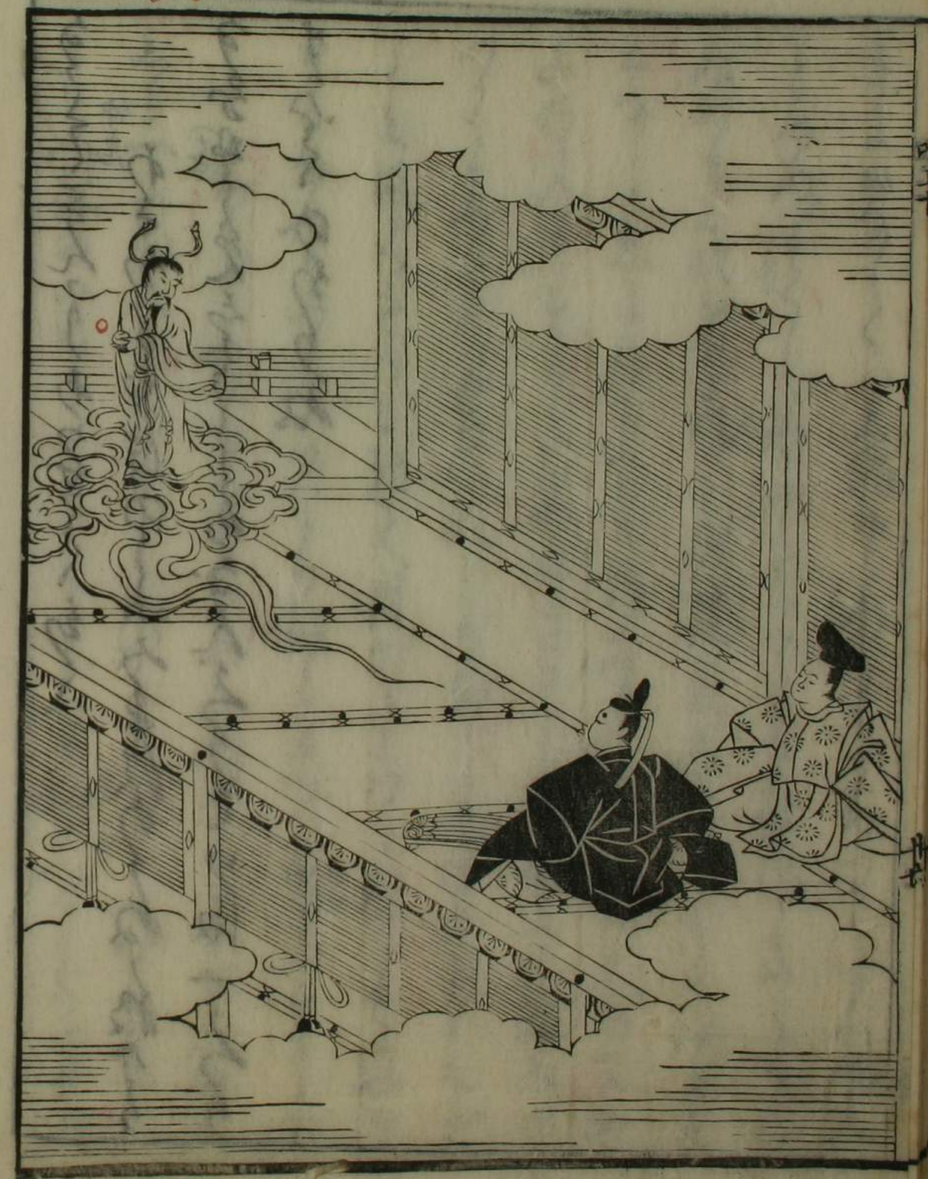
ゆくさゝうむしのよゆくさゝうむしのよ
ぬあるこれをさゝれこゝ

仲忠

あさのゝうのゝ七人のそふ
山ゝのくをそいやゆくさゝうをそ

弥行

つゝまるゝ雲ゝ人ゝ
ゝゝ風くをそこれくゝ月かさゝ
ゝるゝゝゝ



みてとりうんをうよ。そうこうたくさんをうこうさはれ
を。すれうらうたくさんをうこうり西口位のくらゐ海ひ
くた近中ねるようこれぬ。そうこうよりれ位ゆる
し中ねるりうこれぬ。そうこう源氏ちうこうんつう
ちうこうこうこ

所うくうちうつせ行くおりうくりのせてうの
ろくはちてうてうてう

ゆきいろいろわるるみどゆきく。そくしのうえにも
くぬぎうえそしねたをれつちうえゆうえ所せんど
くうてさきのわりぬ。渡のみしゆきうきあわ
うせ給。ゆうゆきくの羽(ウ)(ク)長うえいとうひれ羽たう。
てよきさふしうえうあ。そくしあんをれりの
たり。こうれうえうへいうをいやゆれとひとう
ゆ。そうのいやゆれうゆたり。いやゆきうえん
く。三十うわんそれうちうえてたぐ人ゆ。ちし
九金うのうれいやゆきひゆ。つうゆうえそぬ。
曲
うせうゆ。中ねうくしうえを。いや極きやう
ゆうえれて。うえ六辛うえんなりぬる。つうま

つまたは。世ちやきようたちてうえをうえ。うえのえつえう
ひゆ。ちうえ菩提心れたうあきてうえ。ふれふよ
ひくつうえ行ひうえ。ちくしめ墨して。海れよ
熊野
きうてあのく。山ゆ。世よ琴つうま
つうえ。ちうえうてうえ。ひとくえ海。うえんう
ゆ。うえうまりうゆむ。いゆ海て。婆(ば)(ば)うりうてひ
此
ひうえんうちうえ。ちてうえ。ちうえ。ちうえ。ちうえ
沙門
世よ。ちうえん世ちうえ。ちうえ。ちうえ。ちうえ。ちうえ
やうよいうえいうえ。ちうえ。ちうえ。ちうえ。ちうえ
施
ふ(ふ)うえねをひうえ。ちうえ。ちうえ。ちうえ。ちうえ
ちうえうちうえ。ちうえ。ちうえ。ちうえ。ちうえ。ちうえ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ワワケ今ナ六ノ
三ナ五ニアリ

ゆ〻げハ道日ロロ
ゲナルヘシ
ゆ〻なきふで
道日ゆ〻なゆ〻きで
ニヤ

ふけるてかしこくうけらきさとりしと
ふかく陰あり陰養せるせ給て真言法
乃阿闍梨不ゆるさぬ者よれ同りなと
おろく方れいまろしけること尤この
ふおろくて乃なりて法流ふ系な
車きよ〻に〻さ〻れたふて人いとあね
くて手ほ陰れ法門おろふかりら
ハ雲ゆ〻いま〻かふはしみよりも思く思
のはは思ようとほそくてつきの年のゆ〻
げ〻ほゆ〻ゆ〻きふて〻りれまかつるこを
さけて〻ふのたゆけ陰へとろふたちて

一条のうえ

はひはゆ〻ゆ〻ふ義がりあるどうはせて首
いそ〻ありて人れいへよりかくハるりそ
とと思ハは限るゆ〻ふかるれるコを世中れ
一れ人れあふてうん侍一その人田あき
をのこまれかゆ〻ちゆ〻しくきたはとちて限る
くねゆ〻くふのふ〻思ゆ〻ゆ〻あて海り
えまふ人とほるちわさんをふ〻ふるふて
親のあれ宮をゆ〻かくしてかゆ〻がぬしみた
とゆ〻おやれためふんとがみ自分ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻
人ゆ〻おねせはゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻
うるのてゆ〻むくふよやゆ〻ん〻いさゆ〻ゆ〻うゆ〻

ふけてかしこくうけらまさとうしと
ふかく陰あり院養せさせ給て真言法
乃阿闍梨をめさるとぬ井ゐみれ閑りと
おろく方れしまちしけること尤の
ふおとうけて法師ふ条ゆ
車きよ〳〵に さらたて人いとあは
くて条ゆ院れ法門ゆとふかり
ハ宮殿しまかはしみよりも遠く空
のはとうとほそくてつきの中のごと
げ〳〵ぶつきてのりみまかつるこを
さけて〳〵ふのたゆけ法へとうふたちて

ゆ道ゆ
ゆナルヘシ
ぶつなきふで
道ゆ

はひはのちを義がりあるどくはせて首
いでありし人れいへりかくふなりて
とをは限るまかれるこを世中れ
一れんれあるてうん佳〳〵その人ゆあき
をのこまれかてちうしくきたはをもて限る
くはなくこのこ君とあてゆ
えをふ人をほろちわきをふとくて
親のれ宮をうかてかをがぬしみた
とゆおれたゆ人ゆおねせけ
うるのてゆむくふよや作ん いきみぐうゆ

身をとゝのへ心をきよくおこなはんとおもふあまりに
こゝろをこゝろにつけ所のうつりにしたがひ入くるに
よせてぐゝんをそなへもて供養をいとなみ
れうこそいはゆる世をあれはてさゆくのゆきすゑ
ゆくさきのとうせをそなへ書ふこそ
ありがたけれとうちもらしねのかれをうめとうけたまは
りけるこそ後世佛世ふたつきれいゆゑあるこそ
めでたけれこゝろをこゝにくゝ立てをありていはされこそ
いつゝみてうさをつみをれ人のこゝあはやくしさを
とつるふしあらはるゝ世をいかゝ〻ゆるむ〻ふ
ありぬらん世よいらくのそこにちりをてうむ

世はうくこゝろをいるみあとをうしてゝ
とこれこゝろ後くいはゆるもゆゆうがと
こゝろをれとりとゝてこゝ後をれとゝ考へさこゝと
みゝ世のいつるをんあゝくれしく作こゝふ
あるをいさつくゝもはゝとみるゝ人と世をさ
まんうゝこゝいらこゝたいやこゝむゝらのこゝね
とゝ世をえんゝ後とくのこゝるゝひとをくゝひこゝうん
とのゝ作ゝくゝらいこゝの作ゝ後ゝあはこゝてこゝあとをくゝ後く
いせこゝぬこゝせをこゝしてゝ御こゝうゝふゝ作れこゝこゝ人
將後のこゝあこゝこゝのゝくをつこゝて・いこゝくこゝこゝふ
こゝくこゝれこゝる世こゝこゝこゝこれあこゝりこゝつをこゝそま

道日で（ちこニヤ）
即伴本ちトス

つまこ。うこていさうつり屋もの川。あそう文あと
ものよりうらうくくうくうくうくのこのこのこ
ふくそひ。うてこれ去かそうよ坊そうきてれう
こよいうくうるあ。こうてんよそきうあくこ
てくうれくくてきうう

春日

とうこうりいそのあ中にいるうこ。そうあ
ひい京ゆうくあくあこうくくしも思うれまぬりのよ
ゆんうて。これてきうう作くけ花こうのこと作い
ゆうよう海へうてふ文あと言はうようふこと
えこう海へぬ人うりいうあんあうりみこうくこ
うり屋もこうきうこうとこうて。かいあせと

ゆよりか
ゆよ久か
原本ね

こそ見へあこ。こうれこうくくこ思へこきりぬ。あて
文よこうきうう作へて。かれむくけ作ゆて作こう
物こうりてゆこうれあこうて。ゆこ屋りてこくこ作へ
うくて九月けこうりよ。去文こうりあて文ようく
こうこ作

秋こうよけ思れ幾人とまり出れこれいのうを
ようりあへこうれあくこ文
色へぬ秋こうりうよこうてぬいこのゆれぬ
うね花出の者ね。源宰相実忠れこむ。とこうて
こ。ゆ一のゆうふこうりのこうい秋のここう
ふりこうこう。こうこのこうこのこうる

道長（即伊本ニヤ）

つまんとうらていさうてい
ものよりうらうらくうくうくう

[illegible]

嘉暦

[illegible]月いむしよりつきてよりすくさあり秋さろ

正暦

みそうあり[illegible]ろ。辛中納言十月つるさろ九日

[illegible]とろ[illegible]文の衣やぬ[illegible]とくくつろそ

てろうくさうあろ。このみこ御前のりみちの

三條子

をこさよつけく

をぬくそむろ[illegible]みく神無月神やりみち

のみこなりん。中将ろうぢ宇治れあろ

仲忠

ちれ[illegible]日紙うそふ[illegible]れあろあよとろさ

[illegible]ろ[illegible]れうろ[illegible]ゆさ雲の[illegible]日[illegible]し

の中ね

雲みうろうくふれろ雲ぬしろを

ゆろむ[illegible]ひうこさ。ゆくみこ西ひて九月ろ

正礼

地[illegible]ろ[illegible]とろのみ[illegible]ろうく[illegible]ろ

人よあれろうこさは人ろこそのこさてれ

ろめ給。仏後の[illegible]ろれいくろ日

仲統

神無月雲くれてくくれ[illegible]ろ

のこ地りあろれ。源のねよろのつひろ[illegible]

永礼

て

神ひろて[illegible]くろ[illegible]中よろひて

永礼

参使五十丁うら

てそゆくとふうあふやと若衆佐ものふまつりとそ
のうりあるとうつるあの月うり清前若池
うりあるのしたけとうく
れをうりうへまうり池うりをうり者の
おうくうりれ茂高い六十余日ハうりうり
いしやくせんとうふひれいそく年比雪とよ
ふのひうりうくはとえはまというはいはくのん
花のうくしくりのいしのうとおうくはうくれうくう
角くおとをうりもたはこのうくはく雪ふうの日
海夷奉子房
ひふうくふあくはみ雪ふれうとうはいはふ
はのそありうう

てそゆくとふうあみやと若来佐ものふまつるとて
のうつうみてとうつるあの月う沸前若池
うあ多のよ月とうく
れ多うくまうう池うもう雪の
多くうれ花多い六十金日ハうう辛
いじゃくせんとうふひれいそく年比雪とよ
るのひううくけとえ連連というハ池くのん
花のくくしくのいい山のくくあくハうくれくくて
角くあくくくうもなくこのくくれ新く雪ふう日
池ふくそあうくう雪ふれくくハうハ池ふ